

大岡の風 10月



令和7年9月30日
横浜市立大岡小学校
TEL (711) 0818
FAX (713) 3563

「備えあれば憂いなし」

副校長 井口 さと子

9月1日は「防災の日」でした。防災の日は、1923年9月1日に発生した関東大震災を教訓として、一人ひとりの防災対策の重要性を広く国民に理解してもらうために制定された日です。横浜でも約1万6000棟が全壊するなど、甚大な被害をもたらしました。それから102年経った現在も、地震だけでなく、大雨やそれに伴う様々な自然災害が私たちの生活を脅かしています。

本校でも防災の日に伴い、9月8日に震度7以上の大規模地震発生を想定し、全校で総合防災訓練を行いました。子ども達は、学年に応じて訓練の目的や防災についてしっかりと考え、真剣に臨んでいました。避難の際には、「おさない・かけない・しゃべらない・もどらない」を守り、1年生も上手に避難することができました。今年度、4回目の避難訓練ということもあり、子ども達は、安全で正しい避難方法を理解し、すばやく避難することができます。これは、避難訓練を行う目的やその大切さをしっかりと訓練の事前に考えていること、訓練を行うたびに、各クラスで自分たちの避難が適切だったか等を丁寧に振り返る活動を積み重ね、次の避難訓練に臨んでいるからこそその姿なのだと思います。災害時に、自分がどのような行動をすれば安全に避難できるのかを自分事として捉え、行動することができる子を育成することが避難訓練の大切なねらいの一つです。今後も、子ども達が自分で考え、判断し、正しい避難行動がすみやかにできるよう、日頃の避難訓練を積み重ねていきたいと思えます。

また、4年生が社会科「自然災害にそなえるまちづくり」の学習で、家庭や学校の地震や津波への対策に着目し、災害に備える取り組みについて調べ、学んでいます。「学校の中にはどのような防災設備があるのだろうか。」という問いをもち、学校の隅々を調べていました。そこで子ども達が発見したのが「防災備蓄庫」です。たちまち子ども達の問いは「防災備蓄庫の中には、いったい何が置いてあるのだろうか。」に変わり、副校長である私のところに、防災備蓄庫の中を見せてもらえないかとお願いに来ました。事前に予想を立ててきた子ども達は、「やっぱりあったよ。」「こんなものもあるんだね。」などと言いながら、とても熱心に調べていました。地域防災拠点である本校の防災備蓄庫には、災害時の救助・救出活動や避難生活の維持等のための多くの備蓄品があります。子ども達はこれらの備蓄品を実際に見て、調べる学習活動を通して、自然災害に備えるために今後の日常生活の中で自分が協力できることを考え、選択したり、判断したりして、具体的に実践しようとする意欲を高めていました。



10月26日(日)には、本校にて「本大岡地区防災訓練」が行われます。地域の方と共に、自分たちができる災害への備えや正しい避難行動を知ることができる貴重な機会です。「備えあれば憂いなし」。都合が合えば是非参加し、災害が発生した場合でも、できるだけ被害を少なくするために自分たちができることを地域の方と共に考え、行動することができる大岡っ子になってほしいと思えます。